

## 酪農家の声

飼養頭数：経産牛 44頭  
育成牛 30頭（内事例の育成牛舎飼養は16頭）  
建築年次：平成10年  
建築費用：育成牛舎 700万円 ( $285m^2$ ) パドック 200万円  
パドックコンクリート+堆肥盤 200万円（増設）

## 育成牛舎新築の目的

- 以前の施設が除糞や給餌をしにくい構造であったため、作業性向上をめざした。
- 以前にフリーストール牛舎を視察したとき、牛の汚れが気になったので、フリーバーンタイプにした。
- 牛の体格や一時的な頭数の増減に対する対応が臨機応変にできると考えた。
- 一応、フリーストールに変更することも考えて牛床をレイアウトした。

## 実際に使った結果、感想

- 除糞（3日に1回）や給餌など作業性が良くなった。
- 敷料交換は3日に1回、オガクズ  $0.8 m^3$  ( $\text{¥}2,000/m^3$ )
- 軒高(330cm)が少し足りなかった。トラクタ走行に注意が必要
- パドック入り口が泥濘化したので、牛舎から約5mをコンクリート化（増設）した。
- フリーバーンのレイアウトは満足している。
- 育成牛の成育が早く、初回種付けが15ヵ月から13ヵ月に向上した。  
初産分娩月齢も27ヵ月から23ヵ月に向上した。
- 蛍光灯は防湿加工していなかったので、使用後1週間でこわれた。すぐに防湿加工でグローランプを使用しないものに変更した。

## 今後の改善・目標

- コンクリート化していないパドック部分については、土のような素材で、排水性がよく除糞作業も快適にできるようにしたい。
- コンクリート+オガクズ（少々）の牛床では除糞は楽だが、固くて牛はかわいそう。  
麦カン（麦カンロール1.5個/1週間、 $\text{¥}5,000/1ロール$ ）が最も良いと考えるが、コスト高になるので、牛床素材と敷料を検討中。

## フリーバーンタイプの解説

フリーストールとフリーバーンでは、採食に要する床面積（採食通路）は同じですが、横臥、起立に要する面積は次表のとおり異なります。

### 育成牛の休息に必要なスペース

月齢 (月)	体重 (kg)	フリーストール ( $m^2$ )	ベデットパック ( $m^2$ )
6~8	158~225	1.1	2.4
9~12	225~293	1.3	2.6
13~15	293~360	1.7	3.0
16~24	360~540	2.0	3.7
乾乳牛	585以上	2.4	4.7

（MWPS-7,Sixth Edition,1997を改変）

### 用語説明

ベデットパックとは、今回の事例の様に、採食エリアと休息エリアを明確に分けたフリーバーンの一つのタイプを言います。

## 施設レイアウト（つなぎ飼いタイプ）

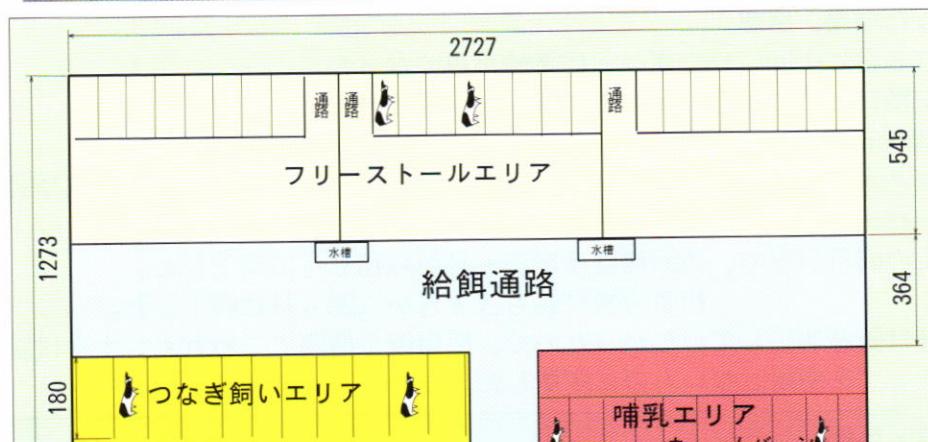
育成期間や乾乳期間に放し飼いタイプに慣れた牛が、突然、つなぎ牛舎へくると寝起き動作がうまくできなかったり、窮屈であったりとストレスがかかり、食欲減退などの症状が現れる場合があります。そのため、分娩前の数週間をつなぎ方式で飼養する例もあります。

(事例：別海町)

育成舎  
側面



育成舎  
内部の様子



育成舎レイアウト (単位: cm)

### 酪農家の声

経産牛頭数: 70頭、育成牛頭数 40頭

建設年次: 平成6年、建設費用 1,000万円

### 育成舎新築の目的

- つなぎ飼いストール部分は当初、初妊牛などの販売時に毛刈りをするスペースとして設計した。
- 別棟の育成舎がほしかったが予算上、難しかったので、育成舎内に組み込んだ

### 実際に使った結果、感想

- 当初の目的にはなかったが、つなぎ飼いストールは初産牛をつなぎタイプに馴致する効果があると思う。絶対的な必要性は感じないが、あると便利な施設と考える。
- 敷料はオガクズではコストが高いので、パーク ( $\text{¥}1,500/\text{m}^3$ ) を使用している。
- 敷料交換は3日に1回、 $1.5\text{ m}^3$ くらい使用。
- ほ育施設の部分は、壁、天井とも板で囲っているが、冬場はやはり寒い。

### 今後の改善点、改善対策

- つなぎ飼いストールの繋留方法をニューヨーク式タイストールに変更したい。
- パドックの管理は難しい。毎年、砂や火山灰など試してみているが「これ！」という素材が見つからない。